

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の有価証券につき償却原価法を採用している。

満期保有目的以外の有価証券については、市場価格のあるものにつき、期末時点の時価評価をもって貸借対照表の価額とする。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……定率法による。

無形固定資産……定額法による。

(3) 引当金の計上基準

役員退職給与引当金…役員退職慰労金の支給に備えるため、計上している。

特別研究引当金…調査研究を自主的に行い広く社会に貢献するため、計上している。

事務所整備引当金…事務所の移転及びレイアウト変更並びに設備の購入等に備えるため、計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は、税抜方式によっている。

2. 会計方針の変更

特になし

3. 一般正味財産から指定正味財産への振替

平成18年度に「一般正味財産」において「基本財産へ充当した99,841,000円」については、本来基本財産として寄附を受けた財産であることから、「一般正味財産」ではなく「指定正味財産」として表示することとした。

この結果、指定正味財産合計額は、1,214,628,761円となり、「資産の部」の「基本財産合計額(1,214,628,761円)」と一致する。

4. 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
投資有価証券	1,214,628,761	200,790,800	200,790,800	1,214,628,761
合 計	1,214,628,761	200,790,800	200,790,800	1,214,628,761

5. 基本財産の財源等の内訳

基本財産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
投資有価証券	1,214,628,761	1,214,628,761	0	—
合 計	1,214,628,761	1,214,628,761	0	

6. 担保に供している資産

該当する事項はなし

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,505,300	1,393,107	112,193
ソフトウェア	6,359,000	635,900	5,723,100
合 計	7,864,300	2,029,007	5,835,293

8. 保証債務等の偶発債務

該当する事項はなし

9. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りである。

(単位:円)

	帳簿価額	期末時価	評価損益
合 計	1,603,542,800	1,625,951,100	22,408,300

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替後の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替後の内訳は次の通りである。

内 容	金 額
経常収益への振替額 基本財産受取利息	19,049,184
合 計	19,049,184

11. 関連当事者との取引内容について

該当する事項はなし